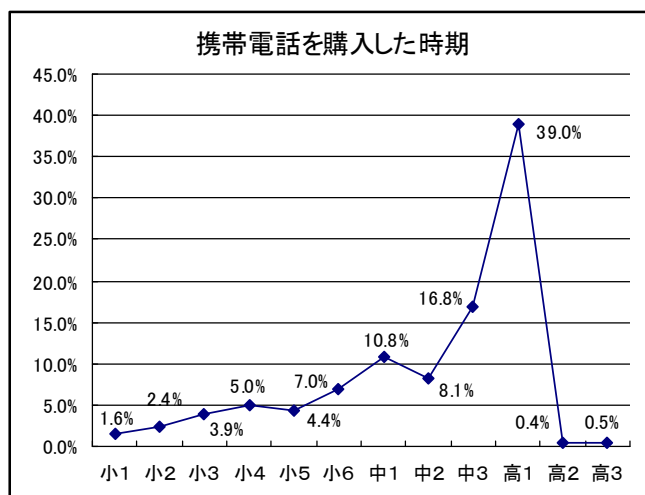
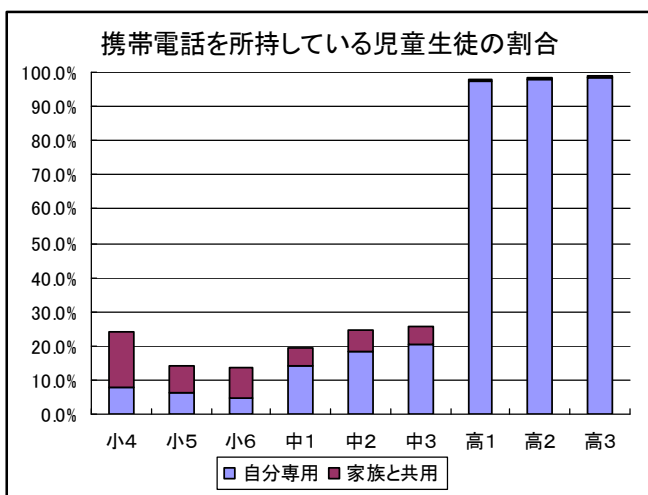


○調査の目的	児童生徒の携帯電話の利用の実態を把握し、指導の参考に資するため
○調査対象及び抽出校	小学校 8 校 (652名) 中学校 10 校 (1,011名) 高等学校 12 校 (1,199名) 計 30 校 (2,862名)
○調査時期	平成 22 年 1 0 月

1. 携帯電話を所持している児童生徒の割合について

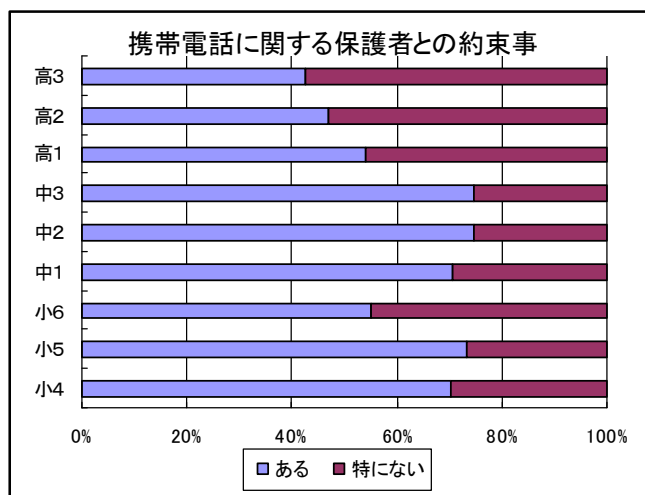
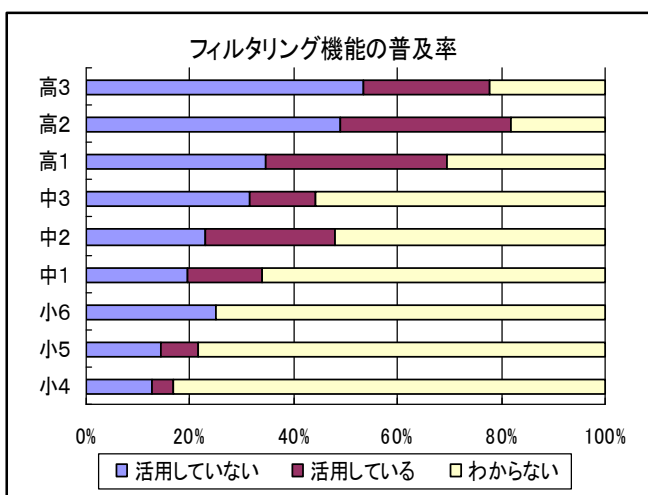
携帯電話の所持率は、小学校から中学校に掛けて緩やかに増加し、中学校から高校の入学に掛けて飛躍的に増加する。携帯電話を購入する時期にも同様の傾向が見られるが、前回（平成 20 年度）の調査と比較すると低年齢化が進んでいる。

自分専用の携帯電話の所持率は、小学校から中学校に掛けて緩やかに増加し、中学校卒業から高校入学に掛けてほぼ 100% になる。



2. フィルタリング機能の活用について

フィルタリング機能の普及率は、平成 21 年 4 月 1 日の法律施行に伴い、前回の調査（平成 20 年度）と比較すると上昇しているものの、高校生約 5 割はフィルタリング機能を活用していないという実態である。携帯電話の使用について保護者との約束事が「特にない」と回答した児童生徒の割合も多く、法律の趣旨が一般に理解されていないという現状である。また、中学 3 年生と高校 3 年生の男子の 1 割以上は、アダルトサイト等にアクセスした経験があると回答している。



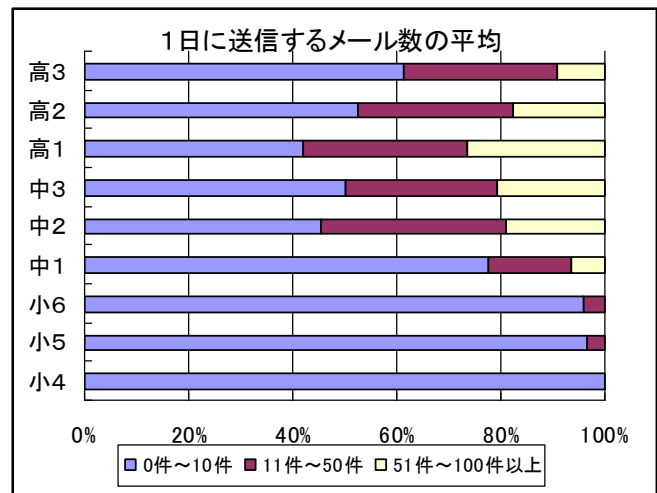
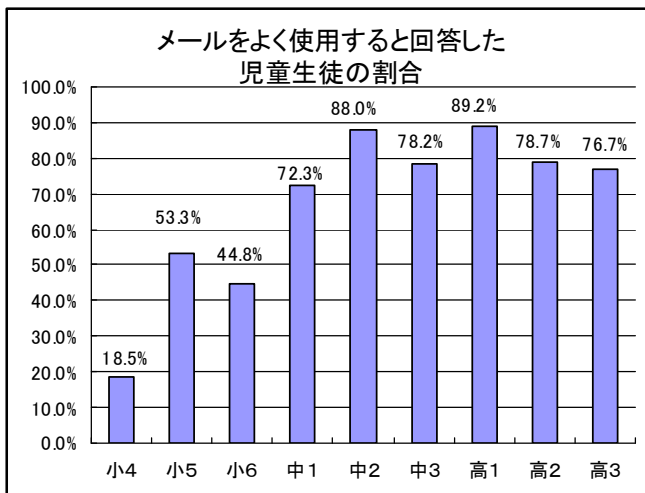
3. メールの利用について

(1) メール機能の利用率

携帯電話のメール機能をよく利用すると回答した児童生徒の割合は、小学生が約5割、中学生と高校生が約8割である。

(2) メールの送信件数

1日に送信するメール件数の平均は、中学生になると急激に増加する。特に高校1年生の4人に1人は、1日に平均50件以上のメールを送信すると回答している。(高校1年生女子のうち9.6%は100件以上と回答している。)



(3) メールをする時間帯

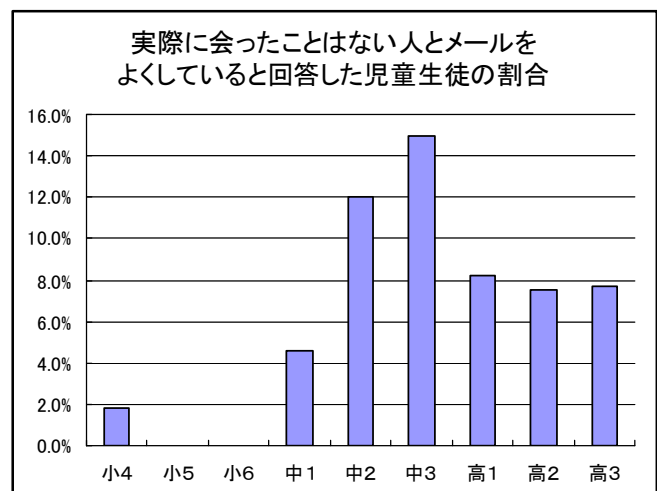
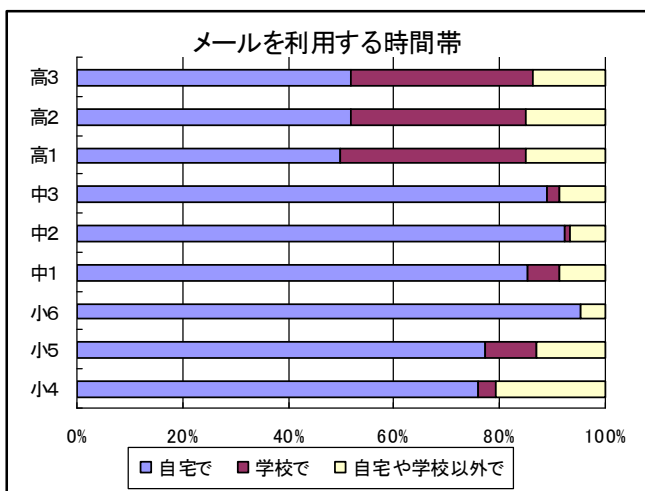
メールを利用する時間帯は、高校入学と同時に「学校で」(休み時間、授業中、放課後、部活動中)という回答が増えるが、全体的には「自宅で」(自宅で1人で過ごす時間、自宅で家族と過ごす時間、深夜)という回答が圧倒的に多い。

(4) メールの相手

メールをする相手は、主に家族や学校の友人であるが、中学生から高校生に掛けて学校外の友人という回答が増える。(中学生が約4割、高校生が約5割)

(5) 顔の見えない相手とのメール

実際に会ったことはない人とメールをよくしていると回答した児童生徒の割合は、中学3年生が約15%であり、そのうち5割は「実際に会ってもいいと思う」と回答している。



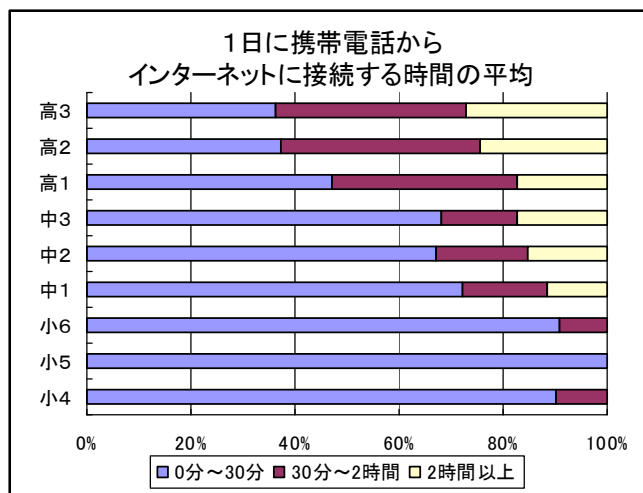
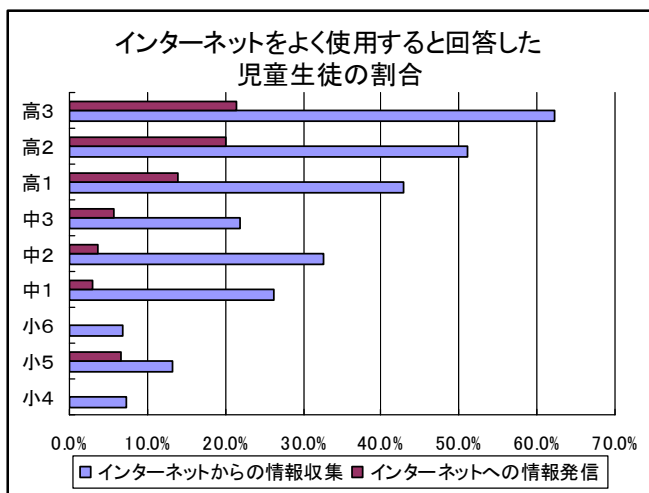
4. インターネットの利用について

(1) インターネット機能の利用率

携帯電話のインターネット機能をよく利用すると回答した児童生徒の割合は、年齢とともに増加する。

(2) 1日にインターネット機能を利用する時間の平均

1日にインターネット機能を利用する時間の平均は、年齢とともに増加する傾向である。特に、高校2年生と3年生の4人に1人は、1日に2時間以上利用していると回答している。(高校2年生と3年生の女子の約2割は3時間以上利用していると回答している。)



(3) インターネットに接続する時間帯

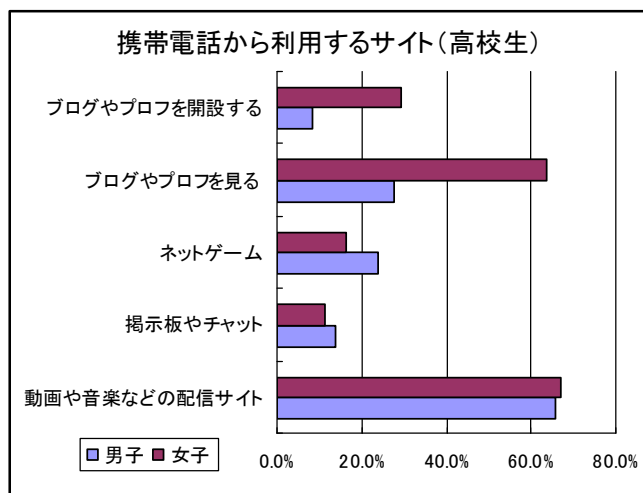
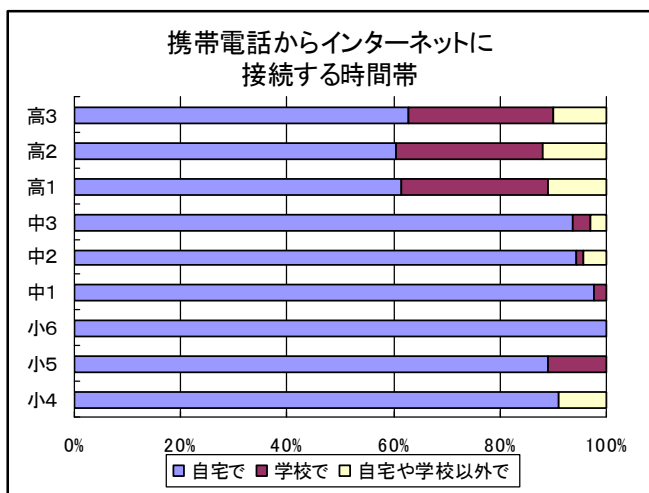
インターネットを利用する時間帯は、高校入学と同時に「学校で」(休み時間、授業中、放課後、部活動中)という回答が増えるが、全体的には「自宅で」(自宅で1人で過ごす時間、自宅で家族と過ごす時間、深夜)という回答が圧倒的に多い。

(4) アクセスするサイト

高校生がアクセスするサイトは、「動画や音楽などを配信するサイト」が6割以上と男女ともに最も多い。

ブログやプロフについては、女子のアクセスや開設が圧倒的に多い。ブログやプロフの開設は、高校入学とともに増加し、高校1年生女子が24.1%、高校2年生女子が27.7%、高校3年生女子が35.8%となっている。(高校3年生の3人に1人がブログやプロフを開設している。)

ネットゲームへの参加や利用も増加傾向にあり、男女ともに2割程度になっている。



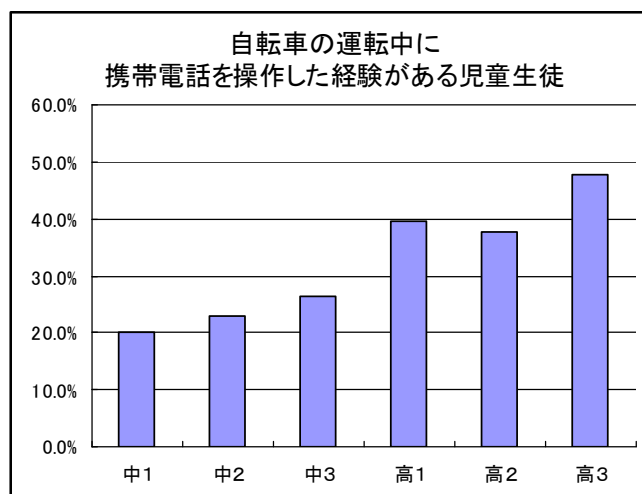
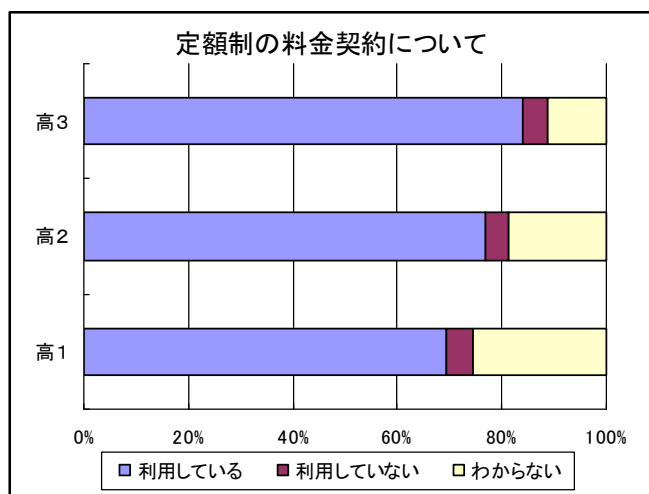
5. その他

(1) 料金の契約（定額制の料金契約）

高校生の7割以上が、「定額制」の料金契約をしている。また、この「定額制」の契約率は、年齢とともに増加している。

(2) 自転車運転中の操作

「自転車の運転中に携帯電話を操作した経験がある」と回答した児童生徒の割合は、中学1年生から増加する。（中学生の約2割、高校生の4割から5割が「経験がある」と回答している。）



6. アンケート結果の総括

- ・携帯電話の所持率や購入時期については、前回の調査（平成20年度）と比較すると低年齢化が進んでいる。
- ・フィルタリング機能の普及率については、前回の調査（平成20年度）と比較すると上昇しているものの、依然として低い水準にある。また、「保護者との約束事がない」と回答した児童生徒の状況などから、法律施行の趣旨について今後も啓発指導の必要があると考える。
- ・携帯電話からメールやインターネットを利用する1日の平均件数や平均時間については、1日に「メール50件以上」「インターネット2時間以上」という「依存傾向の強い」児童生徒の割合が急増している。
- ・インターネットやメールによる「顔の見えない相手とのコミュニケーション」については、各種サイトの普及により増加傾向にある。また、そのような相手と「実際に会ってもいい」と考えている児童生徒の割合は約5割となっている。
- ・ブログやプロフなどを開設し、インターネット上に公開している児童生徒の割合は、女子を中心に増加傾向にある。特に高校1・2年生女子については4人に1人、高校3年生女子については3人に1人がブログやプロフを開設しているという結果である。
- ・携帯電話の料金契約については、定額制の利用が一般的になってきている。
- ・自転車運転中の携帯電話使用については、高校生の4割以上が「経験がある」と回答しており、道路交通法の改正と関連して指導する必要がある。

携帯電話をめぐる諸問題の解決を目指し、長野県青少年対策本部（知事部局・教育委員会・県警察本部）として、携帯電話購入期に向けて、保護者・児童生徒への啓発も強化します。